


レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡スタート研修会 「DLB の理解とケアのポイント」



2016年1月23日（土）福岡市西部地域交流センター（さいとびあ）で、レビー小体型認知症サポートネットワーク（DLBSN）福岡スタート研修会を開催しました。福岡では初めての開催です。DLBSN 福岡の下村代表の「DLB を正しく知って理解することが治療の第一歩である」との挨拶で始まりました。

I. 「DLB の理解」 講師：坪井義夫先生（福岡大学病院神経内科教授 DLBSN 福岡顧問医）

DLB に特別関心のある医師から正確な診断を得ること、支援サービスや介護を保障すること、医師と患者・家族が対話しながら参加型医療を行うこと、DLB 患者が地域で心地良く笑って生活できる権利を保障することを挙げられました。福岡市では九州大学病院と福岡大学病院が認知症疾患医療センターとして指定され、早期診断、鑑別診断の役割を担っています。今後は各区のサポート医とともに地域のネットワークを通し、医療相談を積極的に行っていきたいと述べられました。

次に DLB の症状と検査、具体的なアドバイスについて説明されました。これら DLB の特徴を理解し、正確な診断を受けることによって可能な治療と介護を行うことが大切であると述べられました。また、DLB の知識が広まることで、様々な形のサポートがさらに強化されていくことを期待し、そのなかでサポートネットワークが役割を果たしていくのではないかと述べられました。

II. 「ケアのポイント」 講師：長澤かほる様（DLBSN 東京代表）

1. ケアの要点

長澤代表が現在の立場となった経緯をお話しされました。お父様が DLB で小阪先生に出会ったことが発端とのことで、そのお父様がどのような形で DLB と診断され、どのような経過

を辿って亡くなっていったか、事例を交えながら家族の反応や医師からのアドバイス、特徴的な症状に応じたケアの要点について説明されました。

医療、介護、福祉の連携を強調され、同じフィールドの中でそれぞれの役割をもって徹底することを意識していきたいと述べられました。

2. DLB の診療とサポートネットワークの連携

DLBSN についてご紹介されました。「各地の『エリア』の代表と顧問医によって、交流会を開催することが主な活動。交流会では個々の悩み・疑問・相談を受けて、介護家族、DLB ご本人、ケア専門職、医療職が同じ場で情報を交換し、治療やケアの参考にするため糸口を見つけ、次に繋げていく目的で行っている。ホームページに各エリアの案内など詳細を掲示している」とのことでした。「これをスタートとして、福岡でも皆さんの参加で活発に盛り上げて欲しい」と述べられました。

閉会の挨拶で DLBSN 福岡顧問医の坪井先生から、今後の福岡での交流会の開催について決定次第ホームページで公表することが伝えられ、研修会は終了しました。

